

氏名	本 莊 博 基 (旧氏名 莊正郷)		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1605 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和60年12月31日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学 位 論 文 題 目	マウス顔面神経の形態発生に関する組織学的研究		
論 文 審 査 委 員	教授 村上宅郎	教授 川村光毅	教授 大塚長康

学位論文内容の要旨

ddN 系マウスの胎生 8 日目から20日目までの正常胎仔59胎の聴器連続切片標本を用いて、主に中耳領域を中心とした顔面神経の初期発生を光顕的に観察した。

9 日目に、耳胞の前方に聴神経節原基が出現、第1鰓溝の両側で膝状神経節原基も認められた。10日目には、膝状神経節が明瞭となり、顔面神経が第2鰓弓領域で直線状に走行する。11日目、同神経節から、末梢と中枢の両側へ神経線維束が走るのを認め、鼓索神経と大錐体神経も認められた。12日目には、水平部と垂直部の区分が明瞭になった。水平部の走行形態には、内方に接して発達する耳嚢と内側から発達するアブミ骨底とが関連し、垂直部形態には、12日から13日目のライヘルト氏軟骨の発達分化が大きく関与すると思われる。顔面神経管の形成では、内耳側は初期より耳嚢で形成され、外壁をなす鼓室側ははじめ結合織性に作られる。垂直部内耳側外側壁の一部は laterohyale が耳嚢と共にその形成に関与する。

論文審査の結果の要旨

本研究はマウス胎児の連続切片を光顕的に観察したものであるが、従来必ずしも明瞭でなかった顔面神経と耳小骨との発生学的関係について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。